

「園児・児童・生徒の作品集 2」

～学習成果発表～

校長 森 勝義

「この世界の片隅にを読んで」

高校1年 本多 未和

私がこの本を選んだ理由は、昔の日本についてあまり知らなかったもので、この本を読むことで、少しは知ることができるのではないかなと思ったからです。

この本を読む前の疑問は、2つあります。

1つ目は、昔の人々の生活は今の時代とどう違うのかです。今の時代はスマホ1本に楽しいことから学ぶ機能までありますが、昔の人々はどのようにして、娯楽や知識を得ていたのか知りたかったからです。

2つ目は、昔の人々はどんな雰囲気の中で暮らしていたのかです。理由は、本の表紙にもあるように、現代と昔の時代の人の幅や町の雰囲気が全く違うからです。

この本は、昭和時代の広島県にいる1人の女の子の日常が描かれています。その中には、私が疑問に思っていたことの答えがありました。

1つ目はこの時代はいろんな人々と直接会って、コミュニケーションをとったりしていたことです。インターネットや携帯などがなかったため、人と人が直接話しながらたくさんの情報を知ることができると思いました。

2つ目は、この時代は戦争がありました。戦争はたくさんの人の命を奪うので悲しいものです。しかし、この本の中の多くの人が笑顔で楽しそうに暮らしていました。いつ爆弾が落ちてくるのか分からないのに、幸せそうに毎日生きているので、戦争の恐怖に負けずに、自分の毎日を大切に生きている感じがしてすごいと思いました。

この本を読んで、現代社会の便利さも大切だが、人と人が直接話すコミュニケーションはもっと大切だと感じました。また、どんなに苦しい状況でも、毎日の暮らしを大切に生きる人々の姿に本当の幸せがあると感じ、私も自分の日常を改めて大切に生きようと思いました。

小学部 三年一組

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで

齋藤 晴太

ぼくの心にのこった場面は、その時かげおくりのよくできそうな空だなあという声が、空からふって来ました。という場面です。

理由は、物語がどうなるかや、出来事のでん開を読まないといけない、ふしぎな出来事がある場面だからです。たとえば、ちいちゃんは、一人でかげおくりをしているのに、ちいちゃんが、空を見上げると、くっきりと白いかげが四つ。という言い方は、とてもわかりやすい言い方だと思いました。ほかにも、この場面で、ふしぎな出来事をしました。それは、天国にお父さんや、お母さん、お兄ちゃんがいるという事を教えているのかなと思いました。なので、この場面が心にのこりました。ちいちゃんのかげおくりを読んで、せんそうは、こわいなあと思いました。人

がたくさん死んだり、平わにくらせなくなるので、せんそうは、もうおこらないでほしいです。

熊谷 依音

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」をよんで、少し悲しいお話しだなと思いました。せんそうというものは、とてもこわいことなんだなと思いました。

わたしが一番好きな場面は、家族でかげおくりをする場面です。なぜなら、わたしは、かげおくりという遊びを知らなかったののでやってみたらおもしろかったからです。

せんそうは、たくさんの人が死んでしまうので、とても悲しいことです。これからは。せんそうはなく、平和であってほしいなと思います。

加賀美 凜

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで切ないと思いました。

なぜならば、ちいちゃんがお母さん、お父さん、お兄ちゃんたちとはぐれてしまうからです。

さいごの四場面でちいちゃんがかげおくりをする時に、本当は一つのかげが空に送られるはずなのに、四つのかげがういたところがふしぎだなと思いました。

マレン 大冨

ぼくのところにのこっている場面は、おばさんといっしょにおうちにかえったところです。おうちにはなくなっているのに、おにいちゃんとのへやをおもいだして、ひとりですわっているちいちゃんのきもちをおもうと、ぼくはとてもかなしかった。

吉原 和玖

ぼくの心に一番ところにのこったところはちいちゃんが花ばたけで、かぞくを見つけた場面です。なぜその場面が心に一番のこったかというと、ぼくはちいちゃんはせんそうで、とてもこわかったとしても一人ぼっちでかなしいとおもって、花ばたけについたとき、かぞくにやっとなぐくであえてよかったと思って心に一番のこりました。

すこしかなしいかندوقる場面でしたが、ちいちゃんが、かぞくとあえてよかったなと思いました。

梶原 ひなの

わたしは、ちいちゃんのかげおくりは、切ない物語だと感じました。その理由は、くうしゅうけいほうのサイレンの時、ちいちゃんはお母さんとはぐれてしまっ、そのままちいちゃんをむかえに来なかったのです。お父さんは、出せいで命をなくして、お母さんとお兄ちゃんも、たぶんくうしゅうの時に命をなくしました。さいごの場面に、ちいちゃんが一人でかげおくりをして、でてきた物は、白いかげが四つありました。その四つのかげは、ちいちゃんの家族でした。そのとき、体が空をすうっとすきとおって、空にすいこまれました。さいごは、ちいちゃんも命がなくなったと思います。ちいちゃんが命がなくなって悲しかったです。

「時計の時間と心の時間」を読んで 6年1組

6年1組 梶原 斗真

ぼくは、2つのちがう時間があるということを考えたこともなかったから、考えられてよかったです。その2つの時間は、時計の時間と心の時間です。時計の時間は、みんなが同じ時間が時計の時間とすぐ分かったけど、心の時間は考えたこともなかったの、教科書を読んで心の時間は人によってちがうものとわかりました。教科書は事例がたくさんあって分かりやすかったです。たとえば事例1の、「好きなことをやっていたら時間がすぐ過ぎる」という事例は、ぼくも感じているので分かりやすかったです。ぼくはこの単元を通して、2つの時間を学ぶことができました。；ぼくは、事例1に納得しました。ぼくが好きなことはゲームなので、ゲームをしている時は早く時間が過ぎたからです。また、ぼくはバスで1時間半で日本語学校に着くので、何をしようと考えすごく長く感じたからです。

小嶋 夏希

ぼくは、「時計の時間と心の時間」は共感した事あり、疑問に思った事もありました。共感した事は、その人がその時に行っている事をどう感じているかによって進み方が変わる事です。例えば、サッカーの試合の時は、好きなことで勝ちたいから集中してやるので、時間があつというま

に過ぎるように感じます。ですが、例えば旅行とかの待ち時間はやる事がなく、刺激が少ないので長く感じます。疑問に思った事は、私たちの体は、朝起きたばかりの時は動きが悪くなり、そして昼間であればすぐにできる事も時間がかかるのであつというまに時間が過ぎるように感じる、という事です。ぼくがしっかり寝たときは、すっきりして、昼になったらねむくなります。時恵の時間と心の時間は、共感することもあり疑問もあって、勉強になりました。

安藤 歌耶

私は「心の時間」に目を向けることが時間と付き合っていく上でとても重要なことである、という筆者の考えに共感しました。なぜなら、私も楽しい時は早く感じて、そうでない時は時間がおそく感じるからです。私は夏休みに朝からお友達と電話で話したり、動画を見たり、マンガを読んだり、好きなことをしていたら夕方になっておどろいたことがあります。このままでは、やらなければいけない夏休みの宿題をやる時間がないことに気づきました。楽しいことは早く感じるので、一日の内で遊びと勉強の時間を「時計の時間」に置き換えて予定を立てようと思いました。「時計の時間」と「心の時間」の1時間は同じなので、しっかり時間の管理をして楽しい夏休みにしたいと思いました。

「名前の由来」

6年2組 田中 陽那心

私が赤ちゃんの時に母がよく、「ひな」と言って呼びかけていたようです。「なぜひなの？」と聞いてみると、母が「鳥の赤ちゃんのひなみたいだから」と言っていたので、びっくりしました。私が産まれた時に、母と父が「ひな」がいいのか「ひなみ」がいいのか「ひなこ」がいいのか考えていたそうです。すると父が「ひなだといじめられそうだから、ひなみとかどう？」と言うと、母が「どういう意味を込めるの」と聞きました。すると父が「陽那心の『陽』は、日の光、太陽と言う意味で、『那』は美しいという意味。そして『心』は、思いやりという意味」と言ったそうです。私はそれを聞いて改めてこの名前で良かったと思いました。

これからも父と母がのぞむ子どもに育てばいいなと思いました。

鈴木 大翔

ぼくの名前は鈴木大翔です。2011年に東京で生まれました。大翔という名前は、「大きく翔ぶ」と書きます。両親は、僕が母のお腹にいるときにこの名前に決めたそうです。果敢に物事にちょうせんしてほしいという思いを込めて、この名前に決めたそうです。ぼくの名前の中には、大谷翔平と同じ感覚があります。「翔」です。

ぼくは、その名前と性格がマッチしていたのか、無鉄砲なところがあり、けがが絶えません、骨折もしたし、傷を縫ってもらったこともあります。

困難なことにもくじけずに、大きく翔んで生きていきたいです。

ゲートウッド聖子

私の名前はおばあちゃんがつけてくれた名前です。私の名前がなぜ「聖子」というのか聞いてみました。私の生まれた年のイースターの日に私が産まれたので。「聖子」とつけたそうです。「聖子」と言う名前には、心がきれいで、悪い考えを持たない子、という家族の思いも入っています。

私が今、家族の希望通りの「聖子」かどうかは、分かりません。でも、名前の由来通りの人になれたらいいなと思います。

石山 勉

僕の名前が石山勉となったのは、3つの理由があります。

一つ目は、お母さんが、将来海外に行くと予想して、外国人でも簡単に言える名前に決めようとしたからです。理由は「つとむ」はニックネームで「トム」と言い、日本人っぽい名前でもあったからです。

二つ目は、お母さんは、僕が大きくなったら、勉強熱心になってほしいという気持ちを込めて漢字は、勉強の「勉」と決めました。

三つ目の理由は、祖父が「すすむ」という名前で、「む」がついているので、名前に「む」を入れようと考え「つとむ」にしました。これらが僕の名前が石山勉に決まった理由です。

渡辺 陽生

ぼくの名前は太陽の「陽」に生きるの「生」という漢字で「はるき」と読みます。その理由は、太陽のように生きてほしいからと言っていました。

そしてぼくはこの名前がお気に入りです。理由は、実際の生活が名前の通りだからです。

ぼくは、毎日元気に学校生活を送っています。それが出来るのは、お母さんが「陽生」という名前をつけてくれたからだと思います。

幼稚部制作品



朗報

2023 年度、海外子女教育財団主催の「第 44 回 海外子女文芸作品コンクール」 「短歌部門」で本校中学 1 年の佐藤 開治さんの作品が「佳作」の賞を取りました。素晴らしいことです。

おめでとうございます。

佳作作品 「宿題を つくつくぼうしに せかされる
そんなに急ぐな まだ夏休み」



ヒゲ森の言葉の森・探検



うみせん やません

海千山千

経験豊かで、悪賢いこと。裏も表も知り抜いた、し
たたかでずる賢い人。「海」と「山」に千年ずつすんだ蛇は、龍に

急いでもダメだ。大切なことは
間に合うようにはじめることだ。

ラ・フォンテーヌ

1621年〜1695年。フランスの詩人

ギリギリになって着手し、慌てて間に合わせる悪癖を絶ちき
ろ。計画的に進めることで、別の可能性が広がるだろう。